

平常時に考える都市復興

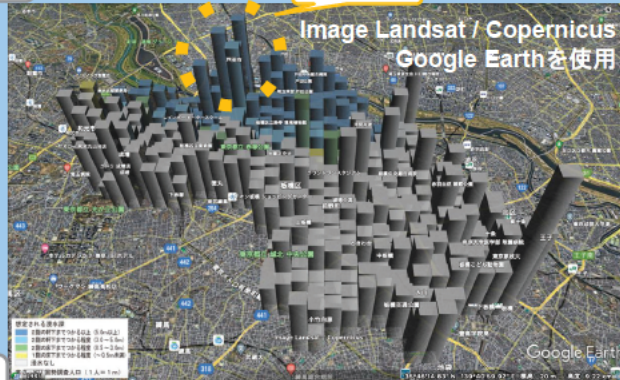
～水害×人口から考える緊急性の高い地域～

平面図で見るより、見やすく一目で理解できる



危険な場所を一目で理解することができ、
分かりやすい

緊急性“高”

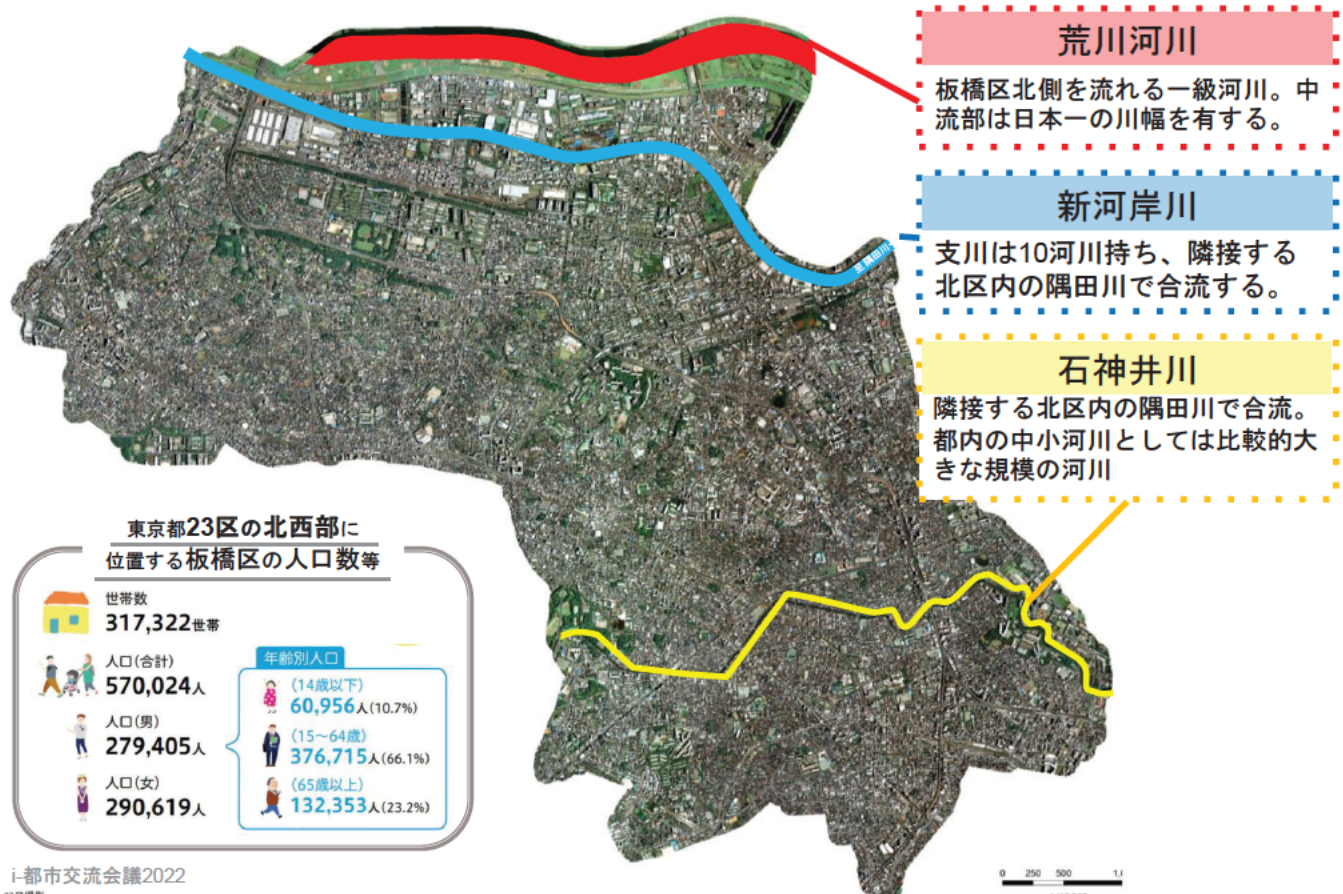


東京都 板橋区 都市計画課

i-都市交流会議2022

1

1. 板橋区の河川と人口



i-都市交流会議2022

27日撮影

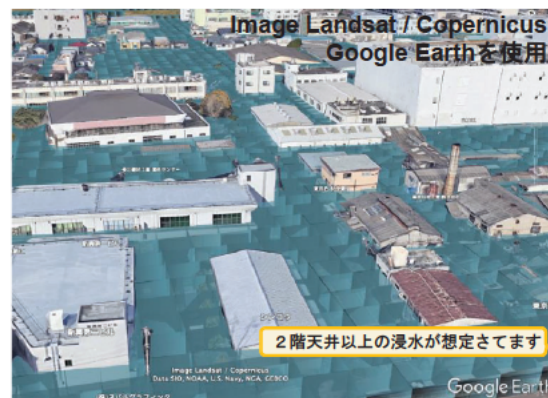
2

2. 想定される水害地域

◆ 荒川河川氾濫による水害

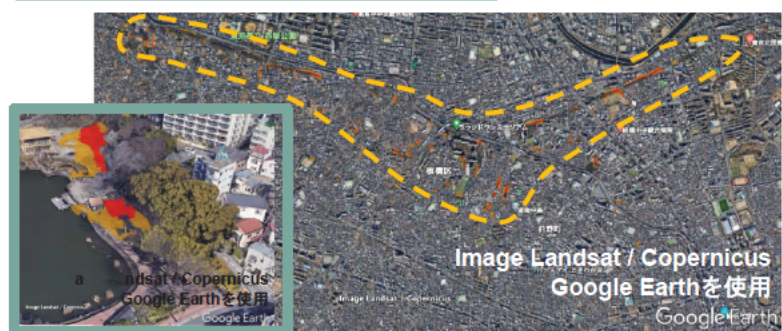


◆ 内部氾濫による水害



i-都市交流会議2022

◆ 地中水分量の増加に伴う土砂災害



3

3. 水害後のまちの形成手順

同じ被害を繰り返さないため、水に強い新たなまちを、下記のステップに沿って形成します。



i-都市交流会議2022

4

4. 想定される浸水深×人口⇒都市復興優先地区の予測

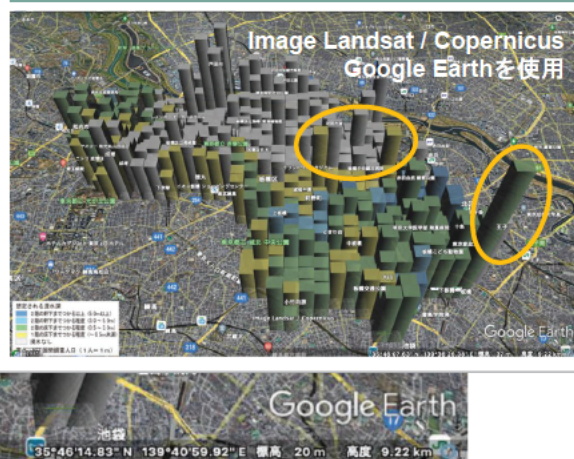
区が保有する想定される浸水深情報と国勢調査人口を合わせて可視化することで被災時に特に優先して行うべき都市復興区域を予測できます。

◆荒川河川による浸水深×人口



他地域と比較し居住者人口が多いため、人的被害だけでなく、建物等の被害も大きい可能性が高い。被災者の生活を一早く取り戻すため、“**緊急性が特に高い重点復興地区**”に位置付けられる可能性が高い。

◆新河岸川+石神井川による浸水深×人口



i-都市交流会議2022

平常時から、所有データ等を用いて可視化・数値化することで緊急時の対策を行うことができます。5

5. 活用事例 ～板橋区職員編～

Google Earthを活用し、各河川の浸水深や土砂災害情報、人口等のデータを可視化し情報共有しました。

平面で見るより、見やすく一目で理解できる



3次元にすることで、新たに発見できる事柄がある

体育館及び校舎の1階天井部分まで浸水。区民の命を救うために、校舎の2階以上に避難誘導する必要があります。

◆今後の活用場面

- ▶都市復興地区の事前予測を行うための検討資料
- ▶避難施設等の配置・誘導に関する計画の検討での活用
- ▶職員向け情報共有での活用
- ▶区民向け説明会での活用

◆展開

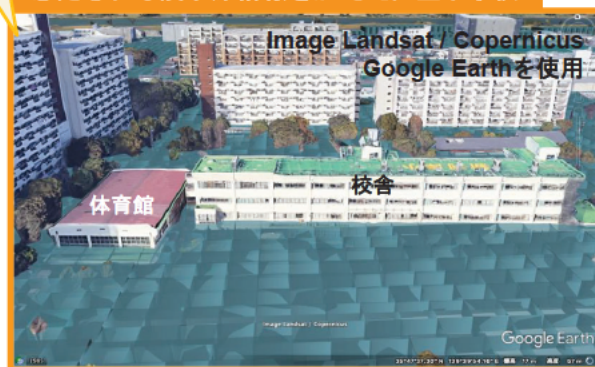
- ▶避難場所や避難ルート等も可視化し一元化することで、さらに、分かりやすいデータを構築
- ▶宅地造成工事規制区域を入れることで、区域内の現状を立体的に可視化し内部検討の判断材料とする
- ▶浸水した水が完全に引くまでの経過を時間軸で可視化

i-都市交流会議2022

区立小学校

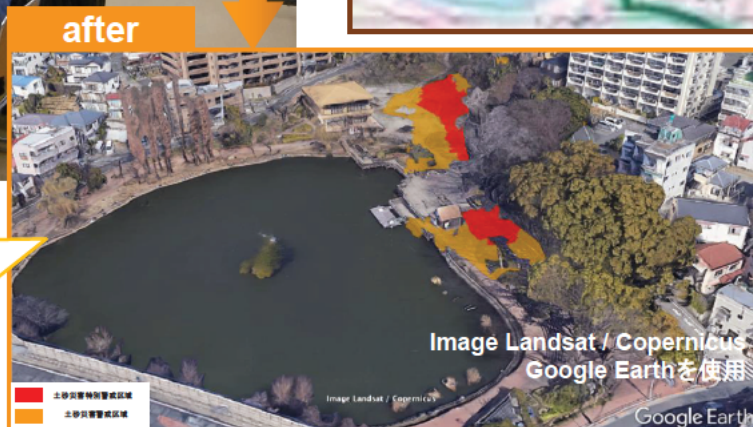


想定される浸水深情報を加えた区立小学校



6. 活用事例 ～区民向け編～

区が保有する土砂災害情報等を活用し、Google Earthにて可視化を行い
区民向けワークショップ開催時に、現在のまちの状況等を共有するための検討材料としました。



before

平面から見た土砂災害区域を線形で表現しています。

After

あらゆる視点から、立体的に土砂災害の場所をピンポイントで知ることができます。

i-都市交流会議2022

7

板橋区

都市の紹介

安心して子どもを育てられるまち



緑と文化がかがやくまち



板橋の主要なイベント



いたばし花火大会



板橋区民まつり



板橋Cityマラソン



板橋農業まつり

i-都市交流会議2022

8